

## 第17回中山台地区教育環境適正化検討委員会議事録

### I 日時

令和5年（2023年）3月14日（火） 10:00～11:45

### II 場所

中山台小学校 3階 会議室3-1・3-2

### III 次第

#### 1 開会

#### 2 議題

中山桜台小学校・中山五月台小学校 学校統合の振り返りについて

#### 3 報告

(1)通学区の弾力的運用について

(2)長尾幼稚園への通園手段について

(3)中山台小学校開校記念式典について

#### 4 閉会

### IV 議事録

（事務局）

それでは、第17回中山台地区教育環境適正化検討委員会を開催させていただきます。本日はご多忙中にも関わらず、会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。

早速ですが、会議の進行を座長にお願いしたいと思います。

（座長）

それでは、議事に入ります。

「(1)中山桜台小学校・中山五月台小学校 学校統合の振り返りについて」、事務局から説明をしてもらい、その後、委員の皆さんからの質疑応答の時間を設けたいと思います。

（事務局）

それでは資料1中山桜台小学校・中山五月台小学校 学校統合の振り返りについて（まとめ）説明します。

こちらの振り返りのまとめにつきましては、学校統合準備会と6つの部会から出た主な課題や検討事項や会議で話し合って、実施した対応策などについて、こちらにまとめています。順に学校統合準備会から説明させていただきます。

学校統合準備会につきましては、主な仕事は部会間調整や、取組状況の周知等を行っていました。主な検討事項や課題の内容につきましては、保護者、地域への取組状況の周知や意見聴取の機会の充実がありました。対応策として、定例の育友会とPTAの会議に事務局が

参加して進捗の報告や情報共有に努めました。そして、学校統合準備会や専門部会ではその際にいただいた意見も踏まえて検討を進めることとしました。

2つ目に周知の機会として、令和元年度に保護者、地域の皆さんへの説明会の実施、保護者の方へのアンケートを実施して意見集約しました。それ以降は、説明会でのご意見やアンケートの結果を踏まえて、各部会に共有した上で検討を進めました。

また、進捗状況の周知のため、統合だよりを発行していましたが、発行の頻度が少ないことや内容の充実について意見をいただいたことから、編集委員への確認や学校統合準備会などでいただいた意見を参考に、改善を図りながら検討を行いました。

次に部会間連携の充実について、学校統合準備会の中でもいろいろな課題が出まして、十分な連携や調整が図られていないということで、部会の関係者による連携会議の開催等をして調整を図りました。

続きまして総務部会になります。総務部会について、所掌事務として、学校名や校章、校歌、閉校や開校の記念式典等がありました。学校名については、当初に検討すべき大きな内容でこういった形で今後きめていくかというプロセスについても協議しまして、委員の所属団体の意見聴取や集約が重要で、それをどう集約していくかというお話も頂く中で部会の中で進めていきました。それもあって、地域、保護者の皆様への説明会の実施、育友会やPTAの会議へ出席する等して、周知しながら学校名について、丁寧に進めてきました。また、校章や校歌について、子どもたちの参加方法について、子どもが新しい学校づくりに関わることで、愛校心を育てていこうということで、公募アンケートを実施しました。また校歌については、学校名に込めた思いを参考にしてもらいながら、作詞・作曲をしてもらいました。部会間連携についても調整不足ということで、中山桜台小学校と中山五月台小学校の学校長と事務局で協議を行ったり、教務部会とも連携を図ったりする協議をすることで情報提供や意見交換を行って、部会間連携を図っていきました。

閉校記念式典について、中山五月台小学校の日程調整の際、当初の候補日が教育委員会で外せない行事がありまして、結果として、中山五月台小学校の閉校記念式典の日程を変更していただくことになってしまいました。その際は関係者の皆様にもご迷惑をおかけしてしまいました。開催日の決定プロセスとして、事前からいろんな予定を含めて想定すべきであったと思います。

次に教務部会になります。統合加配について、本市で初めての統合ということもあり、県からの加配に加えて市の加配について、問い合わせや確認を行いながら要求していきました。その際、決定するまで不透明な部分があるという課題がありました。そのため、その記録についてはしっかりと残しておこうと思っています。また、市の予算で臨時職員や事務の先生、スクールカウンセラーを配置しています。

次に交流事業について、事前に子どもたちが交流を行うことや、お互いを知ってもらうきっかけ作りをすることが重要で、子どもの生活に大きく関わってくるということでした。

しかし、コロナ禍ということもあり、集まる機会の確保や教育課程の調整等があり、実

施の機会の確保が困難であって、予定通りは進めることが出来なかったんですけど、最低限の交流事業として年に 1 回実施しまして、統合前に前もってお互いを知るきっかけ作りを行いました。

次に事務部会について、備品の引っ越しや図書の整理を所掌しています。学校が引っ越しをするのは大きな作業になりまして、事前に計画的に学校と連携を取りながら準備を進めてきましたが、調整不足等の課題がありまして、結果的には、見込みが甘かったということがありました。この点は次回に活かしていきたいと思います。

次に地域・PTA 部会になります。通学路や地域の学校支援、育友会と PTA の統合です。通学路については、新しい通学路の危険箇所や対策の実施について、課題を出し合い検討を進めてきました。令和元年度の夏には、通学路の合同安全点検を行って、地域の方と一緒に点検を行い、その後も部会や保護者の方から意見をいただきながら、課題の把握や整理を行いました。特に新しい通学路となるサンハイツの通学路につきましてはガードパイプや溝蓋、学校前の横断歩道の設置等を行い、安全対策を講じました。

また、学校応援団の体制作りについて、ボランティア及び支援団体の統合や新しい体制作りということで、両校の学校応援団の登録者とボランティア支援内容を共有し、地域コーディネーターを中心に新しい体制を構築しました。令和 4 年度にも説明会を開催するなどフォローも行っています。現状、地域コーディネーターの方を中心にいろいろとご活躍いただいているということも聞いています。

最後に PTA の統合について、規約、役員体制、財産、業務内容など、多岐に渡る検討が必要になりました。事務局で他市を参考に規約案を検討して、保護者の方に内容確認をしていただくような形で、役割分担を行い、協力しながら検討していきました。また、PTA の業務内容については、軽減の意向があったため、学校長、教頭とも協議を重ねて業務内容を決定しました。その際、協議をすることで、PTA の存在意義も改めて確認することができました。

次に児童育成会部会について、新しい専用棟を作り運営を開始するというので、学校と育成会室の往復の際の児童への安全面の配慮から、道路へのガードパイプの設置等について検討しました。結果として、人員配置を 1 名増員することで、育成会室の運営の充実や移動の際の見守り等を強化することになりました。

最後、社会体育団体部会について、運営委員会は統合ということになりましたが、スポーツクラブ 21 については、事前の調整不足もありまして、団体の活動内容の相違もあり、令和 3 年度中の合意形成には至りませんでした。

事務局からの説明は以上となります。教務部会については委員から報告いただけたらと思います。

(委員)

まずは、地域や保護者、教育委員会の皆様には大きなご支援をいただきましてありがとうございました。様々な学校行事について、無事に終わることができました。今は第 1 回

の卒業式に向けて取り組んでいます。それでは、教務部会の振り返りをさせていただきます。

統合するということを職員が聞いた時期が遅く、教職員からすれば、突然のお知らせでした。驚きと戸惑いの中での出発となりました。この統合は宝塚市でも初めての統合ということもあり、教育委員会もそこに向かう組織体制や見通しが立っていない状況であったと思います。統合は学校施設や教育環境のことやPTA、地域等の多岐に渡る調整が必要になりますが、広範囲の事業を統括して見通しを示していくのかということが中々見えなかったというのが実際に、当初は分からない事を聞きたいと思っても、どこの課に連絡して良いのかも分からないし、教育委員会のある部署に連絡してみても、統合にどう関わっているのかも連携が出来ていなくて分からないという状態でした。やはり、統括責任の所在と首長部局と教育委員会の連携を図っていただき、情報共有を進めていただきたいと思います。その後、部会を立ち上げていただき、担当課もはっきりしていきしましたが、今後、統合をされる際には当初の混乱が大きかったので、プロジェクトチームや担当課を作られたら良いのではないかなと思います。

統合に際しては環境の大きく違う二校が統合するので、特に少人数である旧中山五月台小学校の子どもたちが大きな環境の変化に対して、辛い思いをすることが無いようにということを大切にしようと教務部会では話し合いを進めてきました。交流学习を十分に行い、お互いを知りあって、統合に向かっていきたいと思っていきましたが、コロナ禍になってしまい、その機会を計画通りに進めることが出来なくなりましたが、会えない時にはZOOMや作品交流等の工夫をして、出来る限りの交流を行ってきました。1年統合が延期されましたが、あのままでは統合が出来なかったのではないかなと思っています。開校直前の引っ越しのことがありましたが、全ての荷物の運搬になるので、机や椅子も玄関に並び、いろんなものが廊下に溢れている状態でしたが、それを何とかしながら、次年度の学校運営に向けた準備も行いながらというのは本当に大変でした。教育委員会の皆さんも全力で引っ越し等のサポートをしていただきましたが、物を探した際、どこへ行ったのかなと探し回るところから始まり、予期せぬことがたくさんありました。一つひとつが積み重なって、時間がかかっていくような中でのスタートで開校しました。そういったスタートを切り1年を終えようとし、教職員のアンケートも取っていただきました。始めは旧中山五月台小学校の子ども達には戸惑いもあったかと思いますが、毎日の生活の中で徐々に旧中山桜台小学校、旧中山五月台小学校を意識する場面が減ってきたのではないかなと思います。図書館司書の先生も同様の事を言っていました。児童全体の人数が増えて、活気があり、友人関係も広がったという児童も喜んでいるという児童もたくさんいました。また、クラスが他にあることを喜ぶ児童もいました。放課後に旧中山桜台小学校の児童と旧中山五月台小学校の児童が約束して遊びに行くよという話も聞いたりしました。それと校医の先生からも友達が増えたことを報告してくれる児童がいたことも聞いています。学校行事の規模も大きくなったことで、大人数での一体感や迫力を味わえたということもありました。また、

旧中山五月台小学校では、不登校傾向であった児童のうち、割と多くの児童が登校状況に改善が見られるようになって、環境が変わったことで一歩を踏み出すきっかけになった方もいらっしゃるかなと思います。運動会や図工展の大きな行事を取ってみてもたくさんの保護者の方に良かったと言ってもらえることが出来ました。その一方で、大人数でいることにストレスを感じてしまう児童や保護者もいるのが事実です。少人数の中でお互いのことを良く分かって付き合うことができていたが、突然、大人数に囲まれてクラスの中で旧中山五月台小学校の子どもが少ない環境になり、交流関係を築いていかないといけないのはストレスになるかと思います。自分に対する周りの反応が気になってしまったら、少しのことでも周りの視線が冷たく感じてしまったり、上手くコミュニケーションが取れなくなったり、悩む児童も出てきます。旧中山五月台小学校では、時間をかけて個性を理解して分かり合えていた部分がありました。しかし、統合初年度は本来であれば、大人数の環境になるのが、中学校からであった児童が小学校2年生から5年生の子ども達が突然こういったことに突入したという状況になりますので、環境の変化で保護者も子どもたちも不安を感じる部分があるということで、3年間くらいきめ細やかな指導に当たれるように、統合加配やスクールカウンセラーの配置も今年度はしていただきましたが、今後も絶対に必要だと思います。統合したら終わりではなくて、学校行事においても今までとの違いが大きく、疲れを感じてしまう児童もいます。2学期以降にそういった疲れが出てきて、カウンセラーに係る方が増えてきています。やはり、長い目で見ても3年間くらいは必ず必要だと思います。一人ひとりがしんどいと思うときに寄り添える人や話したり出来る人がいるということは大切だと思います。また、統合初年度の運営について、昨年度の夏休みの間に合同で職員会議を何回も行って決めてきました。その時の担当者は来年の1年間を通して提案するであろうことを夏休みに話し合っておいて決めたことです。その中で旧中山桜台小学校をベースにするということは決めていました。理由として、旧中山五月台小学校の人数の中での提案では、学校運営が回りきらないことがたくさんあるので、やはり中山桜台小学校をベースとしました。その中でも中山五月台小学校の良いところを入れて、提案は作られました。基礎的なものは作っていても、統合初年度は教職員が全力疾走で取り組んでいたため、細かいことまで協議は中々出来ませんでした。そういったこともあり、旧中山桜台小学校がベースで進んでしまうということもあって、旧中山五月台小学校の児童、保護者、教職員にも戸惑いや不安があったことについて、アンケートでもご意見をたくさんいただいています。とにかく、この1年を終えて2年、3年目くらいにかけて反省点を検討して、ようやく中山台小学校の本来のものが、作り上げられていく時期になるのかなと思います。新しい学校は1年で出来上がるものではないので、皆さんと一緒に良い方向に向かっていけたら良いなと思います。今回、統合前に地域と保護者の協力で学校応援団を結成していただきました。学校行事や学習支援等をいただき、里山でも様々な収穫体験をさせていただいています。ただ、この前の振り返りの際、早めの連絡が欲しいと言われましたが、里山との往復に2、3時間かかってしまうので、特に高学年になると、専

科の先生達と時間調整をしないといけないので、時間の調整が難しかったです。この点が旧中山五月台小学校との違いになります。今年、1年経験したことで、来年に向けて、少しでも事前にお伝えできるようにということで、集約しているところです。

今年、地域や保護者の方に支援いただいて、中山台小学校のみんなで安心・安全な集団登校を作っていこうと子どもたちと取り組みました。職員も登校指導にも力を入れて、特に高学年が学校のリーダーとして、率先して頑張ってくれて、道いっばいにバラバラで登下校していたのをみんなで守りあえる集団登校にしていこうということで、大きく改善することができました。毎日、登下校時にお手伝いしていただいている学校応援団の方がいますが、ふざける子もいなくなって、早く来られるようになったよというお声をいただいたりしています。継続することはとても難しいことですが、先日、地区児童会があり、地区委員の皆さんにもご協力をいただきました。集団登校の取組について、子どもたちにアンケートを取ったところ、90%の児童が自分も努力しているし、きちんと並んでくることでトラブルが少なくなっていると答えてくれていました。

日々の生活の中で学校教育目標にある自分も人も大切に新たな道を切り拓くなかやまっ子の育成という自分も人も大切にしたい思いやりや行動を学んでいく中で新たな学校づくりをしていく風土になっていくのではないかなと思います。見守っていただいている地域や保護者の皆さんにも感謝しています。様々なアンケートの中でも旧中山五月台小学校の保護者からクラスの数が増えて先生との距離が遠いというお言葉もいただいています。以前の家族のような繋がり比べると戸惑いがあることも多いと思います。3年生は35人ぎりぎりの人数であったり、逆にクラスが増えて人数の少ない学級が出来たりしますが、そこは国の基準なので、何ともできないところではありますが、少しでもそのような不安が無くなるように努めていきたいと思っています。今年、一年は開校年度で12月には開校記念式典も行い、皆さんには映像をみていただいたと思いますし、先日はPTAから子ども達に開校記念品を配布していただいて、とても喜んでいました。まだまだ、これから新しい学校として、伝統を築いていく途中ですが、温かい心遣いやご支援をいただいて、より良い学校づくりに取り組んでいけたらと思っています。先ほど、申し上げたとおり、3年くらいは手厚いご支援を教育委員会の皆さんにはいただきたいと思っています。加配をつけていただくというのは、不安な子ども達をしっかりサポートしていくことに繋がりますので、そこはしっかりお願いしたいと思っています。

(事務局)

学校運営については学校でしっかり行っていただいて、教育委員会としては支援する立場ですので、人員体制についてはしっかり配置していきたいと思っています。加配の状況について、説明させていただきます。

先ほど、令和4年度におきましては、県と市の加配で3人いまして、事務職員もつけています。スクールカウンセラーにつきましては、通常、拠点校とそれに付随する学校みたいな形で配置します。中山台小学校について、拠点校としてメインで中山台小学校を見てい

いただいています。令和5年度の加配について、結論はまだですが、引き続き対策を取るということで予算審議が図られています。

(委員)

県の加配は毎年減っていくというような前提になっていますよね。

(事務局)

はい。そこは決まっています、2年目、3年目と学校規模に応じた形になっていきます。先ほど、長期に3年は配置が必要ということなので、我々も人の確保に努めたいと思います。

続きまして、PTAで学校統合の振り返りという保護者アンケートを実施しました。本日はその報告をお願いしたいと思います。

(委員)

前回の適正化検討委員会を受けて、保護者の意見を聞いてはどうかということで、保護者アンケートを実施しました。その集計結果を皆さんの手元に用意していますので、ご覧になってください。設問をいくつか作ってまして、在籍していた学校や子どもが複数人いる方は最高学年だけを記載いただきました。特定されるのが嫌だという意見もありましたので、分からないように記載しています。まず、1年生の保護者に対して、統合して良かったと聞きまして、実際に統合して良かったと答えもありますし、あまり良くなかったと答えられた方もいらっしゃいます。それが、中山五月台小学校側では同数で、中山桜台小学校側では、良かったという意見は多かったが、良くなかったとか、変わらなかったとかの意見が一番多かったです。統合して良かったと思うのは、友達が増えて良かったという良い面もありますが、それより、中山桜台小学校の方は変わっていないと思われる方が多いのと、中山五月台小学校の方は良かったと思う方と良くなかったと思う方が同数ということで、どちらの意見もあるということです。また、フリースペースも設けており、ご意見も書いていただけるようにしています。フリースペースに記載された意見は羅列させていただいているので、読んでいただけたらと思います。良かったという意見と良くなかったという意見が二つあります。それは、中山桜台小学校の人も中山五月台小学校の人、どちらもいらっしゃいます。私はPTAをしているので、学校に行く機会も多いですし、関わることも多いので、学校の先生がどんな体制で一生懸命にされていることを近くで見ているため、分かりやすいですが、一般の保護者はコロナ禍だったので、学校に来る機会が無く、間近で見ることが少ないです。その中でのご意見になりますので、実際に学校でされているさくらフェスティバルという文化祭みたいなものがあります。保護者の中にはそれが無くなったと思われる方もいますし、勘違いされている方もいらっしゃいます。先ほど、説明があった通り、中山桜台小学校の規模を含めて、そちらをベースにされているということなので、ここに書かれていることが全てでは無いです。ただ、良かったという点は友達が増えたという点に特化されています。悪かった点は多岐に渡っており、いろんなご意見が挙がっています。中山五月台小学校でやっていた里山は中山桜台小学校の方

にとても好評で、PTA で整備のお手伝いとして毎週、誰かが行けるようにシフトを組んでいます。それに、参加された保護者から行ってみないと分からないことがあり、行ってこそ良さが分かるという意見も聞いています。なので、里山に行かれた方は環境が良いので、今後も継続して続けていった方が良いという声をいただいています。なので、今後も継続していただけたらと思っています。

学校や地域、PTA への意見等、様々な意見があるので、一読していただけたらと思います。やはり、中山五月台小学校で統合して良くなかったという意見も載っています。そこで良くなかったという意見として、先生との距離が遠い、先生と話しにくく、行きづらくなったという意見があります。先生方は本当に一生懸命されています。普通の業務に加えて、統合の業務になっていたのも、本当に大変だったと思います。引越しの時から夜遅くまでされており、先生方の負担も大きすぎると感じています。それと私の息子が5年生ですが、統合が原因で不安定になりました。担任の先生とも相談させていただきましたが、その時の先生とのお話で気付かないことがたくさんありました。統合で中山五月台小学校の児童がどう思っているのか分からなかったということで、それが聞いて良かったというお話もありました。ただ、そこで私が感じたことは、統合について、中山桜台小学校でも中山五月台小学校でも説明会を行っていただき、保護者の意見を吸い上げていただきましたが、一切、それが活かされていなく、先生方にも話が下りてきていないのか、先生方の業務が忙しく、把握されていなかったのか分かりませんが、担任の先生から聞いた話では懸念事項として保護者が挙げていた話ばかりです。それがそのまま現実に起こってしまっています。皆さんの心配事の意見が反映されていなかったところで残念に思いましたし、今後はしんどいと思う子どもや楽しいと思う子どももいますが、先ほどの話にもあった通り、しんどい子が出ないようにする配慮が必要という話をされてきたのは、そういう子どもがまだまだいるということなので、引き続きの対応をお願いしたいと思います。

それは先生だけが出来ていなかったというわけではなく、先生方は準備期間も少なく、話が下りてくるのも遅かったのは事実で、それも知っています。統合にずっと関わってきたので、先生がどんなに悩まれて大変な思いをしてきたか分かっています。また、計画が全然できていなかったのも、統合の会議で何度も伝えてきました。それも全然活かされてこなかったです。統合初年度で混乱するのは分かりますが、それも上手く連携が図れなかったりすることがたくさんあったので、今後も引き続き時間はかかることだと思いますが、やっていかないといけないことだと思います。子ども達のフォロー体制も引き続きやっていただきたく、先ほど、3年という意見もありましたが、最低3年が必要だと思います。

(事務局)

確約はできませんが、要求していきます。

(委員)

それと現場の事は先生方しか分からないので、先生方の負担が大きすぎると思うので、フォローもしっかりとお願いします。統合での懸念事項として不登校等が現実になってきて

います。そういう状況があるのも事実になります。

あと、PTAでも事前準備をしてきましたが、学校の一年間の運営状況が分かりませんでした。PTAは学校と連携することも多いので、学校と模索しながら今年度は進めてきました。まだまだ不十分なことや決めないといけないことがあります。

PTAでは引き続き取り組んでいきたいと思います。また、地域について、学校に纏わる支援団体として、中山台小学校に特化した学校応援団がスタートしていますが、まだまだ、試行錯誤しながら進めています。それ以外にも学校関係の支援団体はたくさんあります。統合の中でそこは話が出来ておらず、不十分なところではありますので、学校に纏わる支援団体の取り扱いについて、今後どういう連携を築いていくのかが課題だと思います。また、PTAともそれぞれの役割分担を行いながら、地域、学校、PTAが連携していくのが、今後の課題と思っています。統合に際して、支援団体の話が出来たのは、学校応援団、スポーツクラブ21、社会体育団体だけでした。教育委員会の横の繋がりが薄かったと思っています。今回の統合ではそこが改善されたと聞きましたが、もっと連携が図れる部分があったと思いますので、今後それを活かしていただけたらと思います。

(座長)

これで報告は以上となります。これから皆さんの意見を聞いていきたいと思っています。何かございましたら発言をお願いします。

(委員)

このアンケートの中で、PTAの役割について、意見があるかと思いますが、結構マイナスのイメージで読みました。

(委員)

そうですね。どうしても思うことを書かれるのでマイナスの意見もあります。

(委員)

そのへんはどうですかね。今後、PTA活動をやっていきたいと言われていましたが、保護者の考え方はマイナスが多く、削ってほしいや、外部委託にして欲しい等の意見があります。PTAと保護者のそれぞれの考え方が私には分からないので、今後、どういう風に考えておられますか。

(委員)

学校として、旧中山桜台小学校と旧中山五月台小学校はそれぞれの体制や考え方が違いました。PTAはそれに基づいて協力する団体で、PTAそのもののあり方も違いました。

(委員)

どういう風に違ったんですか。

(委員)

規模が違ったというのがありますが、考え方が違ったというのが印象的です。それはどこかと聞かれると言葉が難しくなります。

(委員)

ここに外部委託にして欲しいという意見もありますが、その辺が違うんですかね。

(委員)

旧中山桜台小学校の方は仕事が多かったです。ここにいらないと記載されているのは旧中山桜台小学校の方が多いです。実際、PTA 活動に関わった率も違って、保護者の人数も多いので、PTA に関わる方は少人数で済みます。役員は1回で終われる学校でした。しかし、旧中山五月台小学校では人数が少なかったため、何回も役員ができる学校でした。そこでの考え方や学校に対する理解度や、なぜこれが必要になるかという目的や理由や意識が旧中山五月台小学校の方が作りやすかったです。でも、旧中山桜台小学校の方が学校に向ける意識が薄かったという違いがあります。そこで、PTA の理解度や実際にどのような仕事をしているのかを理解されていない方が多い中でのイメージでしんどいと答えられる方が多く、やりにくいと思われる方が旧中山桜台小学校の方が多かったということです。統合に際して、PTA ではどういう統合をしないといけないのかという話し合いから始まり、そこは折り合いが付きにくかったところです。今でも、中山桜台小学校がベースにされている状況で、今後、PTA としてどうあるべきか模索している段階です。仕事内容は統合で大幅に削ったので、仕事が多いと言われている方は活動をご存知無い方の意見だと思います。

(委員)

分からない保護者に対して、今後はどうしていこうと思われませんか。

(委員)

統合の時点でも広報の違いがありまして、中山五月台小学校では毎月1回の運営委員会がありまして、そこでの話をPTA だよりに掲載して周知していました。中山五月台小学校ではPTA だよりに読んでくれる保護者が多かったため、周知がしやすかったです。一方で中山桜台小学校では、読まない人が多いと感じます。そこは改善点だと思いますし、現在も模索しながらやっている状況です。考え方として、中山五月台小学校のやり方ができたらとは思いますが、中山桜台小学校がベースになっているため、どう改善していけば良いかはいろんな事を試行錯誤しながら進めていけたらと思います。

(委員)

私は統合する前に中山五月台小学校から中山桜台小学校に転校しました。その時に感じたのは、人数が多く、12人からいきなり70人を超えましたが、そんなに嫌がることも無く、なんとなく行けていました。保護者として感じることは、地域から親との繋がりを持たなくても進んでいける学校という風に感じました。知らない人はいつまで経っても知らないままで6年間を終えてしまうなと感じたことがあります。それから2年間が過ぎますが、新たな人脈を築くことなく、学校生活を進んでいけるので、保護者としては学校にあまり関わらなくても学校生活を終えていける学校だと思いました。中山五月台小学校ほどの濃密さは無いと思い、人数が多いし仕方ないと思いますが、今回統合するにあたって一緒にりましたが、旧中山桜台小学校の保護者が多いので、その体制は中々抜けないと思いま

す。両校とも昔を引きずったままです。一緒になりましたが、旧中山桜台小学校、旧中山五月台小学校ではどうだったというのが保護者の中でもあるかと思います。

(委員)

実際、中山五月台小学校の人には中山桜台小学校の気持ちが分からないと言われることもあります。中山五月台小学校の人からしたら、中山桜台小学校の気持ちが分からないと思います。形として統合されましたが、気持ちとしては統合できていないです。

(委員)

新しい中山台小学校にしていくには時間がかかるということですね。

(委員)

PTA のことに関しても、いきなり変えるのは難しいです。いろんな事をやってきましたが、私たちが思うことをやりたいと思っても、時間が足りないし人も集まらないです。本部の中でも全員の一致というのは取りづらいです。ここ一年では劇的に変わることができなかったとは思いますが。

(委員)

私が思ったのは人数が多い、少ないではなく、少ないからこそその良さがあったり、濃密さがあります。少ないから本当にそれができないのかと言われると違うと思います。

(委員)

旧中山桜台小学校ではそこまで関わらなくても良いという感じで、旧中山五月台小学校ではいろんな事をサポートしてくれていたと思います。多いとか少ないというのはあまり関係無いとは思いますが。これまでの中山桜台小学校の時、保護者のサポートはどんな感じでしたか。

(委員)

保護者にはボランティアとして、さくら文庫というグループで読書活動をしていただきまして、PTA 活動としてのサポートはしっかりとしていただいていたと思います。その度合いや濃密さは学校によって違うので、中山桜台小学校時代の保護者が全く何もしないということではありません。

(委員)

今までの方はそれぞれの学校でやるべき事はされてきました。それは悪いことでも無いですし、それぞれの学校に応じたやり方をされているので、違って当然だと思います。そして、事実として、考え方ややり方が違ったというのはありますので、今後どうしていくのかの擦り合わせは時間もかかりますし、大変な作業になります。

(委員)

教職員でも昔のことを引きずってしまうこともあります。育友会の方が他の学校に比べて何もしなかったということではありません。

(委員)

中山五月台小学校の保護者が残してほしかったと思うことができているかということ、現実

できていないと思います。

(座長)

他にご意見はありますか。

(委員)

里山について、子どもや保護者達に好評だと思いましたが、今後、里山はどうしていくんですか。これは旧中山五月台小学校の跡地のことにも関わってくると思います。里山については是非とも残して欲しいと思います。

(事務局)

まず、今の中山台小学校と里山の距離について課題があります。移動するのに一定の時間がかかってくるのが学校運営上の課題であると思います。教育委員会としての課題ですが、里山を見てくださっているすけっとさんや体育館や運動場をお貸ししているスポーツクラブ21の方は人がいなくなった学校をいろんな形でメンテナンスして下さり、非常に学校を綺麗に保ってくれています。そういう意味でも非常に効果は高いと思います。一方で里山は人が作った農地なので、どこまで農地として管理されてきたかと言うと、そこに課題があります。そこで田んぼをしようとする、一定の水を貯めないといけませんが、かつてはブルーシートを敷いて、水を保とうという取組をされていましたが、長期間の経過もあり劣化してしまい、水が流れてしまっているというのもあり、水道代が相当かかってきています。また、山からの水という気候によっては期待できないということや土の入れ替えが出来ていないという課題があります。

しかし、里山ではすけっとさんを中心に活動していただいていますので、活動を維持するようという要望は聞いていますが、いろんな課題をどう克服していくのか、すけっとさんと協議していかないといけないと思います。田んぼをメインにされていますので、その時期までには協議をして決めていきたいと思っています。今のところ、継続していく予定ですが、克服していく課題がありますので、その上で学校にはどうかということ投げかけていきたいと思っています。

(委員)

学校も今後継続していくという考えですか。

(委員)

学校として環境教育の一環としてやっていますが、収穫体験ということになりますので、そこは出来ると思いますが、環境学習としてはまた違うことも考えていくこともあると思います。

(事務局)

学校の横に、ゆうゆうの森という自然豊かな所がありますので、その活用を地域の方でご支援いただくことが出来れば、可能性は広がっていくと思います。

(座長)

他にご意見はございますか。

(委員)

保護者としての意見になりますが、元中山桜台小学校や元中山五月台小学校という分け隔てなく、こういうご意見をいただいている方は何か思われている方で、一部の方で大多数が不満を持っていたり、どこの小学校という強い認識は無いので、大多数はフラットな方だと思います。今後はどういう風にやっていくのかという先の話を同じ一つの学校として、やっていけるのがベストだと思います。

(委員)

本部でも運営委員会でもみんな考えてやっていこうというスタンスでいろんな話をしながら中山台小学校としてどうしようということやらせていただいています。今後の課題として、そこも時間がかかるころだと思います。

(委員)

学校とPTAの方からのご意見をいただきました。何より中山台小学校として一年目がスタートできました。それが思い通りにいってなかったとしても、これは誰が悪いとかではなく、時間がある程度、必要なものだと感じています。それぞれの立場の中で皆さんが一生懸命やってくださり、ようやく辿り着けた現在があるということで、そのことに関して、学校やPTAの方々には感謝の言葉しかありません。ただ、1年間の中で出てきた課題について、これから地域や市も含めて取り組んでいかないといけない課題だと思います。まずはその課題を克服するためにも教育委員会の方にはしっかりと予算と人員の確保を強くお願いしたいと思っています。いくら理想があっても、それに伴う人手が無いことには理想も叶いませんので、そのことが教育環境適正化検討委員会として、統合に舵を切ったということで責任があると思いますので、そのことは地域として、よろしく願います。

(委員)

PTAのアンケート結果の説明をいただきまして、確認させていただきたいことがあります。3ページ目の保護者の皆さんのアンケート結果について、基本的には統合して良かったということで、良くなかったと答えられたと答えられた中山桜台小学校の保護者が12名で中山五月台小学校の保護者が10名になります。それから15ページの学校は楽しく通っていますかという項目でいくと、どちらとも言えないと答えられている方はいますが、いいえと答えられた方はほとんどいなくて、統合が嫌だったと答えられた人は比率でいうと、極端に少ないです。しかし、19ページ目には、統廃合で一人でも嫌だったと答えた人がいるなら、統合は失敗であるという表現が書いてありました。私が思うのは統合して1年目でこういう比率の評価が出れば大成功であって、これから救う手立てを学校、PTA、地域のみならずで検討していくことが大切だと思います。この1年経過しましたが、統廃合では必ず反対される方は出てきます。それを考えると、1年目にしたら評価はとても良かったのではないかと思います。パトロールをしてる際、子ども達に話を聞いたりしていますが、楽しく過ごしているということと、中山台地区の通学路で上り下りを経験して足腰が全然違うというくらい健康になっていることを実感します。新1年生はあっという間に体

格が良くなったと思います。今後も継続してフォローしていけば良いのではないかと思います。

(座長)

他にはよろしいですか。

(委員)

アンケートの提出率が56%なので、そこは差し引いて読んでいただきたいということと、本当にしんどい方はアンケートを書くのが嫌ということで、出されていなくて直接お聞きした方もいらっしゃいます。たしかに8割や9割の方が良いと言えれば、良いように捉えられますが、学校教育というのは違うと思っていて、配慮を必要とする子どもがたくさんいらっしゃって、その子ども達をどうするかという視点が教育では必要と聞いています。だからこそ、教育に関わるアンケートという意味では少人数のところのご意見も必要になります。だからこそ、しんどい子が出てきても対応やフォローができるように重点的に話をされてきました。

(委員)

こういうアンケートの結果は事前にいただけたらと思います。

(委員)

21ページの下欄にこのアンケートの中であまり統合して良くなかった。学校に楽しく通えていないという意見が一つでもあるならば、この統合は決して成功とは言えないということを教育委員会や地域、適正化検討委員会の方は受け止められなければならないと書かれています。先ほど、その表現を言いたかったわけです。

(座長)

それではこの議題については終わりにします。

(委員)

今回はこの反省をしましたが、それを受けて今後どうしていくんでしょうか。どうしていくのが大切だと思っています。いろんなご意見があるのは当然だと思います。今後、どう動いて、役割分担をするのかということが大切だと思っています。教育委員会はどのように考えていらっしゃいますか。

(事務局)

今日の会議の目的は統合を振り返って、次に活かしていくことが大事だと思っています。市内で次に統合するという具体的に決まっている学校はありませんが、今後、教育委員会で進めていこうと思っているのは全市的に校区を再編していく取り組みを検討しています。その中で、何校か小規模になっている学校が統廃合される可能性はありますので、その時に活かせるようにしていきたいと思っています。また、中山台小学校の加配について、最低3年というお話をいただきましたので、それに取り組むことと教職員をフォローできる体制を引き続き取る必要があると考えています。今日出た意見は必ず次に活かしていきたいと思っています。

(委員)

具体的なことは考えていらっしゃるんですか。

(座長)

例えば、企業統合した際、新しい新入社員が入ってきて重役になることでやっと新しい文化ができると思います。この学校でも6年くらいかかるのかなと思います。ただ、その間に出た問題点は解決しないとイケません。その問題点は小さくても改善していく必要がありますと思います。そういうことを繰り返す中で新しい文化が出来ていきます。しかし、問題点を出し合ったけれど、どう解決するかというのが、今の話では無かったと思います。そういうことをこれからいろんな会議がある中で、問題点を解決すると同時に提案することによって次に活かしていけるということなので、またそれをするのは時間がかかると思いますので、そういう場を持っていかないといけないと思います。それはこの会議だけでなく、違う場においても、学校や地域、教育委員会等も交えて解決したりする問題等、いろいろあるかと思います。そして、この問題に対して、こう取り組んでいこうという気持ちを心掛けていくと良いと思います。

(委員)

今までもその問題はどのようにするのかというのがありました。だからこういった現状になっているわけです。現場に話が下りているかも分からないですし、計画も中途半端になってしまいます。いろんな事がふわっとしていたので、一つひとつどうしていくのかということところが一番大事で、それをここでするのか、何か違うところであるのか、いろんな方法があると思いますので、どれをするのかを決めるのがこの会議だと思います。

(委員)

ここの場が字の通り、教育環境を適正化していきましょうという会で、現在は統合して1年目が終わったというところで、課題が出されました。それに向けて、まだまだ取り組んでいかないといけないのが、それぞれ学校やPTA、地域との連携等があるとすれば、その中で検討していかないと、次には進めないと思っています。検討した結果、適正化検討委員会でないと話し合えないということがあれば、ここに返していただくということになると思いますので、今後、地域や学校、PTAが具体論をそれぞれ検討していかないといけない部分だと思います。なので、この場では具体論までは提案ができないと思います。今日、課題が出たことに対して、どう対処するかということは、それぞれが持ち帰って考えましょうということに留まってしまうようにも思います。

(委員)

そうなる今までと一緒ですね。

(事務局)

今までとこれまでの違いは大きくあります。今までは無かった学校をどうしていくのかというところを議論していました。PTAについてもそうだと思います。昨年の4月1日からはある学校のことやPTAのことや主体である教員や保護者がいる中で、自分たちの学校や

PTA について議論できますので、今回出てきた課題について、学校における課題は学校にお返しして、PTA における課題は PTA にお返しして、そこが主体となって考えていくことだと思います。もう学校統合準備会は統合の準備を終えましたので、準備会で議論することはもう無いと思います。この適正化検討委員会は学校では解決できないことや一つの団体だけでは調整できないことや、包括的に検討するべき事項があれば議論するというところで、検討課題を整理しないと、全て学校のことも学校で議論する。PTA のことも議論するとなると、ふわわっとしてしまうので、議論する場についてはそれぞれの組織で検討するべきではないかと思います。

(座長)

この場で解決すべき問題と PTA で解決すべき問題があるかだと思います。それぞれ場が違うと思います。それぞれの場で問題点の指摘があって解決していくということと、全体で解決しなければならない問題があれば、最初からこういうアンケートを持って、提案できたら良いかと思います。今回のこれで終わるわけではないので、一つひとつ、どの問題はどこで解決するかを整理して、それぞれ解決していくようにすれば良いと思います。また、この場を設けてもらって提案するべき事項があれば提案すれば良いと思っています。

(事務局)

学校の事を考えるのであれば、コミュニティスクールがあるので、適正化検討委員会との関係性を整理しないといけません。統合に落ち着きが見られないと次に進むことができませんが、適正化検討委員会では次のテーマである小中一貫教育もあります。中山五月台中学校では児童数が中々増えていかないという実態もありますので、そこも今後どうしていくのか。中学校の在り方を検討しないといけない時期にきています。次の課題に移る事も一つではないかなと思います。

(委員)

本日はいろんな意見が出ましたが、教務部会から出た意見でしたが、皆さんにも了承いただき、適正化検討委員会の意見として、教育委員会に言っていただいたのは、最低 3 年間の統合加配ということですね。そういう手厚いフォローをしていただきたいと思います。

(委員)

それが一番大事なことだと思っています。

(座長)

今日の会議の中で意見が出てきているわけなので、教育委員会は対応をよろしく願います。それでは、続きまして事務局から報告をお願いします。

(事務局)

通学区域の弾力的運用について、山手台中学校区から中山五月台中学校に就学を希望されている方について、令和 4 年度の入学希望者は 7 名に対して、令和 5 年度の入学希望者は 13 名になります。2 つ目の長尾幼稚園への通園手段になりますが、令和 2 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日までの事業になります。中山五月台幼稚園が令和 2 年 3 月末で閉園

となりましたので、長尾幼稚園への通園手段を教育委員会の方で阪急バスの定期代の補助と長尾小学校に隣接された旧長尾幼稚園の跡地を駐車スペースとして開放しています。令和4年度の利用者は合計17名の方にご利用いただきまして、阪急バスの定期代補助が3名と駐車スペースをご利用いただいたのが14名います。令和5年度につきましては新たに4名が利用される予定です。また、今年度に卒園される方が7名いますので、14名の方が中山台地域から長尾幼稚園に通園される予定です。最後に中山台小学校の開校記念式典です。昨年12月10日に中山台小学校の体育館で行いました。式典について検討するため、総務部会を中心に実行委員会を立ち上げ、検討してきました。書面会議を含めて、4回の会議を行いました。ここにいらっしゃる委員の方にもご協力いただいた方々がいらっしゃいます。本当にありがとうございました。式典当日、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、2部制にして、保護者の方々は会場に来ていただくことが出来なかったため、オンライン配信を見ていただきました。式典の内容について、市長、教育長、学校長からご挨拶をいただき、中山台小学校の校章を作ってくださいました方や校歌の作詞をされた方、作曲をしてくださった方に来ていただき、校章や校歌に込めた思いを児童の皆さんに伝えていただきました。また、児童からはお世話になった3名に感謝の言葉を伝えて、花束を贈呈しました。また、中山五月台中学校の吹奏楽部に来ていただき、記念演奏を行いました。児童の喜ぶ姿を見ることが出来て良かったです。最後に実行委員会の決算について、会計担当には決算の確認をしていただき、実行委員会の委員の皆さんには実績報告及び決算の報告を取らせていただいて、実行委員会を解散しようと思います。報告は以上になります。

(座長)

今の報告に質問等はございますか。

～無し～

それでは本日の議事が全て終わりました。私から一点だけ、会議というのは問題点の指摘だけではなく、次にどう改善していくのか、どう発展させていくのかという内容について、話し合いをしないといけないと思います。次回以降はそういう視点を持って話し合いができる組み方をさせていただけたらと思います。それでは事務局にお返しします。

(事務局)

ありがとうございました。それでは第17回中山台地区教育環境適正化検討委員会を終了させていただきます。